

# 協同の発見

第294号  
 2017.5

きょうどうのはっけん



## 全国よい仕事研究交流集会 2017

②

### ◎全国よい仕事研究交流集会 2017 分散会

#### ・各分散会報告

岩城 亮平 / 岡安 智生 / 渡邊 陽太 / 小暮 航 / 松田 爽子 / 有村 綾 / 岩城 由紀子 /  
 川合 秋穂 / 井上 裕紀 / 西尾 直樹 / 小森 俊寿 / 都留 芸 / 中野 理

#### ・全国よい仕事研究集会 分散会 コメンテーターより

麻生 裕子 / 走井 洋一 / 前山 総一郎 / 大高 研道 / 田中 きよむ / 川村 匡由 /  
 高端正幸 / 島袋 隆志 / 志波 早苗 / 前田 健喜 / 古沢 広祐 / 下村 幸仁

### ◎協同労働の協同組合の当事者である、集会参加者の学び

— 一本集会の全体会、分散会感想文の紹介 —

#### ■巻頭言

田中 夏子 「社会的共有財」(コモンズ)としての「よい仕事」

#### ■ワーカーズコープで働く若手リーダーの紹介(11回目)

中川 貴裕 ささえあい生協10年の歩みと「はよし」  
 ～法人設立の思いとわたしの大事にしたいこと～



# 協同の発見

第294号 2017.5

## 特集 全国よい仕事研究交流集会2017 ②

### 目次

#### 巻頭言

- 「社会的共有財」(コモンズ)としての「よい仕事」 ..... 2  
田中 夏子(農/協同総研理事)

#### 特集

##### 全国よい仕事研究交流集会2017 ②

- 特集リード ..... 4  
相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)
  - 全国よい仕事研究交流集会2017 分散会
    - 分散会名簿一覧 ..... 7
    - 各分散会報告 ..... 8
      - 第1分散会 岩城 亮平 第2分散会 岡安 智生 第3分散会 渡邊 陽太
      - 第4分散会 小暮 航 第5分散会 松田 爽子 第6分散会 有村 綾
      - 第7分散会 岩城 由紀子 第8分散会 川合 秋穂 第9分散会 井上 裕紀
      - 第10分散会 西尾 直樹 第11分散会 小森 俊寿 第12分散会 岩城 由紀子
      - 第13分散会 都留 芸 第14分散会 中野 理
  - 全国よい仕事研究集会 分散会 コメンテーターより ..... 74  
麻生 裕子/走井 洋一/前山 総一郎/大高 研道/田中 きよむ/川村 匡由/  
高端 正幸/鳥袋 隆志/志波 早苗/前田 健喜/古沢 広祐/下村 幸仁
  - 協同労働の協同組合の当事者である、集会参加者の学び  
一本集会の全体会、分散会感想文の紹介 ..... 103  
相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長)
- ワーカーズコープで働く若手リーダーの紹介(11回目)  
ささえあい生協10年の歩みと「はよし」  
～法人設立の思いとわたしの大事にしたいこと～ ..... 130  
中川 貴裕(ささえ愛はよし 防災・環境担当、介護職員)
- 労協連だより 田嶋 康利 ..... 136  
研究所だより 岩城 由紀子 ..... 138



巻頭言

# 「社会的共有財」(コモンズ)としての「よい仕事」

田中 夏子 (農・協同総研理事)

本稿は「よい仕事」研究交流集会の第二分科会報告として作成したのですが、編集部のご提案で、巻頭言として再構成いたしました。第二分科会の議論から考えたことを以下3点にまとめます。

■「よい仕事」はワーカーズコープの大切なアイデンティティだが、しかし社会との共有財でもある

「よい仕事」はワーカーズコープ発足時から一貫して掲げられてきたスローガンですが、近年では「社会連帯経営」という概念によって、その内実が濃密化する段階にあります。私たちの生活には、命と暮らしを支える諸活動(FEC等)が、実に多く存在しますが、その中でたまたまお金がつくものが優先され、大事ななお金のつかない活動がどんどん後回しになって、気がつくとも命と暮らしが空洞化し脆くなっていることを、自らの生活についても痛感します。経済的対価や「市場性」の有無とは異なるロジックで、仕事・活動の体系を大きく組み換えつつ、誰もがディーセントワークそしてディーセントライフを生き得よう、地域運営(地

域経済だけでなく)の仕組みを実践的に作っていく、そのことが求められていることを実感しています。

こうした実感は、広く地域に共有されつつあります。市民が自治的に積み上げてきた相互の支えあいや、「ほっとけないでしょう」の発想にもとづく子ども食堂や困窮者支援が活発化する中、社会連帯経営を伴った「よい仕事」を、ワーカーズだけの宝にすることなく「地域の共有財」として育ててもらおう、そしてもっと豊かにしてもらおう、そうした段階にあることを、本集会の議論から改めて確認しました。

■ワーカーズコープが、地域住民のものとして認識され、活用されるための仕組みづくりへ

制度が見落してきたニーズ、あるいは制度が見ぬふりをしてきた切実なニーズ、これに自主事業で応えていく…居場所づくりや学習支援等の活動が多く生まれています。その際、ワーカーズコープだけだと、立ち上げ資金をどうするか、経常的な経費をどう捻出するか、市民としての活動と仕事が一体化した場合の経済的対価の問題はどう

整理するのか…難問に直面します。

地域住民とともに取り組む活動となれば、この点は少し解決されますが、住民がそれぞれ個別に協力者や応援団に留まる場合、事業の継続の不安定性がつきまといまいます。ワーカーズコープを取り巻く地域住民が、ワーカーズを利用し、もっと地域に根ざす方向に育てていく、そのために結び合う（自己組織化）流れがあってもよいのではないかと考えています。事業の形態問わず、住民の自治的な取り組みに、ワーカーズコープが関心をよせていくと、一層ワーカーズが地域と歩む可能性が開けるように思います。

#### ■イタリアのコミュニティ協同組合の考え方の根幹には、住民自治の拡充がある

上記のことは突飛な話ではありません。たとえばイタリア南部の自治体では、コミュニティ協同組合という考え方で、再生可能エネルギーに取り組む場合、クリーンなエネルギーを利用する住民（利用組合員）、エネルギー事業に従事する住民（就労組合員）、事業の立ち上げに資金面で協力する者（投資組合員）等、多様な役割を担う者が1つの協同組合マルチステークホルダー型を構成しています。ここで強調したいのは、その組織的特性ではなく、こうした協同組合がなぜ必要とされたかです。このコ

ミュニティ協同組合を主導した自治体の若き市長は次のように述べています。

「この町が、協同組合として太陽光発電に取り組む意義は二つある。一つは発電施設の設置やそのメンテナンスをはじめ、電力を活用した施設等で、地域の若い世代に仕事を提供できること、もう一つは、福祉サービスや公共交通等、小さな自治体での、人々の生活の質を向上させることだ。このことはまた、地域運営に市民が主人公として参加をすることでもある」\*1

市長の上記の発言で、最後の部分「市民が主人公として地域運営に関わること」こそ重要です。当然、州や国に対してコミュニティ協同組合の持続的運営を保障する制度提案が必要で、そうした働きかけもこの市長が中心となり他の小規模な自治体、山間部の中小企業団体、協同組合連合組織、そして環境保護団体ともネットワークを形成しながら展開しています。

こう考えると、社会連帯経営という性格をもつ「よい仕事」は、命と暮らしに関わる諸課題に、市民自治を豊かにしていくことを通じて対応していく、そうした社会関係づくりを促進するものといえます。だからこそワーカーズコープだけで抱えていないで、外へ投げかけていくべき「共有財」なのです。

\*1 メルピニャーノ市（プーリア州）イヴァン・ストメオ市長インタビュー動画より（田中抄訳）  
<http://www.vita.it/it/article/2015/07/31/melpignano-storia-della-cooperativa-perfetta/136144/>

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワークスコープ）への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。